

# 農業生産性の向上を目指し、ほ場の大区画化、農地

## ■農業農村整備予算の約6割を充当

秋田県は、ほ場整備をはじめとする農業生産基盤整備について、農業農村整備関係予算の約6割を充てて重点的に推進している。令和7年度は、全体約341億円の農業農村整備予算のうち、農業生産基盤整備に約210億円を充当。農地集積加速化基盤整備事業、農地中間管理機構関連ほ場整備事業などにより、担い手への農地集積と水田の大区画化、排水対策など複合型生産構造への転換に必要な農業生産基盤整備を実施している。

## ■機械化による生産性向上を目的に創設

ほ場整備事業は、農業の機械化による労働生産性向上を目的に創設された。ほ場の区画整理、農業用排水路、農道などの各種工事と換地処分により、水田利活用・自給力向上の基礎となる生産基盤を整備するとともに、地域農業をけん引する担い手へ農地を集積し、農地の集団化を図る。

大館市の二井田地区で最初の県営ほ場整備事業が実施されてから60年。令和6年度末までに県内の水田面積の73.3% (93,577ha) が30アール以上の区画に整備され、農業生産



畑原中央地区 圃芸メカ田地付近(大仙市) 写真提供 秋田県農林水産部 農地整備課

性の向上が大きく進んだ。管内別の整備率は平鹿管内が85.6%と最も高く、山本管内など東北地域の整備率は低い傾向となっている。

## ■30アール区画で機械化農業進展に対応

標準区画を30アールとするほ場整備が一般

化したのは昭和40年代。機械化農業の著しい進展に対応し、水田農業の労働生産性を飛躍的に高めるのが目的だった。

40年代半ばからは、農村の生活環境改善も目的に加わり、広域農道、農村集落道、農業集落排水などの整備が進められた。

# 農業農村整備事業の推進に

出典：(株)秋田建設工業新聞社